

柏樹

題字
南 勇 会長
川口市退職校長会
会報 第27号
令和5年7月1日

趣味の二刀流

小川 吉之丞



いつのまにか
卒寿を過ぎて今
こうして生かさ
れていることに
感謝しながら残
された人生を楽

しく生きたいと思う。

楽しく生きるにはたくさん
の趣味をもつといい。な
ければなんでもやりた
いことをするのも趣味だ
と思う。

私は絵に興味があったので、
今もなお様々な美術展（市展・
県展・創元展）に挑戦し、
創作を続けている。昨年11
月には長年にわたり市展の
発展に尽力したということで
感謝状を戴いたが、しかし
最近になって急に老化が進
み、体力の限界を感じてい
る。

絵を始めた頃、もつと誰
もが喜ぶ手軽な趣味はない
ものかと出合ったのがハ
ーモニカだった。図々しく
も町会で試み近くの老人
ホームに誘われたので

ある。

その時介

護士さんに

付き添われ

百歳になる

あるおばあ

ちゃんが私のハーモニカに
合わせて楽しそうに歌って
いるのを見て驚いた。生
きることはなんとすばら
しいことか。逆にパワー
を戴いた。

以来、今はコロナで中止
しているがことある毎に
あちこちで余興。よく私
は元音楽の先生ですかと
尋ねられるがとんでもな
いいいかげんな似せ者
である。趣味の巧拙はあ
まり気にせず、自他共に
、喜ばすことに心がけて
いる。

コロナの流行る前、教え
子の同窓会に呼ばれハー
モニカで「校歌」を合唱
したら生徒は大喜び。中
には涙ぐむ様子も。歌い
ながら様々な懐かしい
思い出が脳裏を去来した
のであろう。彼らにとつ
て学校は唯一心の故郷
なのである。顧みれば
柏樹会総会の締めにも
登場して早や10年とな
る。このように長く続い
ているのは柏樹会なら
では品性の高さにも
起因しているように思
う。「故郷」（川口）は
何度歌っても心を癒さ
れるが、それ以上に先
生方の元気な歌声が
会を盛り上げ楽しく
してくれる気がする。

残る人生、会員の皆さん共々、
楽しくありたいと願いな
がら――。

薫風に誘われ、

ちよつとポタリング

江川 剛



柏樹会にお世
話になり12年
目となりました。
その間、釣リク
ラブ（休会中）
やゴルフクラブ

の会員の皆様には大変お世
話になっております。この
場を借りてお礼申し上げます。
柏樹会にお世話を承り
ます。

さて、「教育」から完全
に足を洗って、「今日行く」
場所や用事も無い生活に
突入して5年目に入りました。
最近では、健康維持と
ゴルフの基礎体力作りも
兼ねて自宅周辺を毎日1
時間程度徘徊しています。

また、気分転換と更なる
体力向上を目指し、月に
数回自転車（20キロ程
度）を徘徊しています。安
全確保のため遠くから
でも目立つ黄色いヘルメ
ットも着用しています。

幸いなことに自宅近く
の芝川サイクリングロード
を活用し、①さいたま

市見沼区方面②川口市安行方面③東
京都北区王子飛鳥山方面④東京都台
東区上野・浅草方面⑤東京都足立区西
新井大師方面等、その日の体調や天候
に合わせて適当に「今日行く」所を選
定しています。

自転車（20キロ程度）で風を切りながら、
風の香り、目に映る季節の花々等自然を
楽しむことも出来ます。

名所旧跡に立ち寄ることも有り
ます。花見がてら上野公園に行つた
時には、地元の人に見えたのか、外
国人観光客から道を尋ねられたこ
とも有りです。「英語をもつと勉
強しておけば良かった」と痛感
しました。相手がスマホでパン
ダの写真を見せたので、動物園
の入り口まで案内させていただきました。
今はスマホの通訳アプリを活用
すれば何とかなる時代になりました。

表題の「ポタリング」（和製英語）
とは、目的地を特に定めること
なく気分や体調に合わせて周辺
を自転車で徘徊すること。一人
か家族連れや気の合う仲間
で、近郊を「散歩」程度に軽
くサイクリングすることだ
そうです。

気力と体力が続く間は、
ポタリングを続けたいと思
っています。余談ですが、
最近私は電動アシスト自
転車で徘徊しています。

令和五年度 先輩校長に学ぶ

— 更なる前進を —

会長 南 勇

本会は残念なことに、毎年5名から10名の先輩校長を亡くしております。皆、親しく膝を交えて語り合い、話を聞きした先生ばかりです。この中には、あの悲惨な太平洋戦争に召集され、九死に一生を得て復員し、その後、教育に全人生を捧げた方も大勢おります。その多くの方はあまりにも苦しい体験が故に、まわりに語ることもなく静かに去っていきました。しかし、ほんのわずかな方ですが、手記等の形で我々に残していかれた方もおります。その中のおひとり、10年程前にお亡くなりになり、今、ご存命なら百才近い先輩校長の手記をここに記します。

「私は教育に道を求めて、教壇に立つたが半年で招集され、海軍特攻基地に配属となり、人間魚雷として敵艦に体当たりをする猛烈な訓練の日々をおくった。やがて出撃の日、その日、8月15日、玉音放送が流れ。終戦・・・」

「国破れて山河あり」の言葉通り、茫然自失の状態に復員し、荒廃しきった祖国をみた時、ただただ、涙が流れた・・・それから教育現場に戻ったが、荒れ果てた教育界に唾然として立

ち上がる気力もなかった。しかし、廃墟となった土地に、ほんのわずかだが雑草がもう生えているのがみられ、また自分と同じように茫然自失の状態、うつろな表情でボロをまとった多くの子供達がさまよっているのを見た時、その時、私はこの子供達の目に未来に向かう光をもどさねばと思った・・・以来、教育に捧げ、こんなにも平和で豊かな日本を誰が予想したのだろうか。私の人生も同じように訓練の連続だった、あの戦争のさ中で死ぬということ

が少しもこわくなくなっていた。この死生観は死ぬ覚悟なら何でもできるという自信にもなり、教育を自分の天職として、子供達を生き生きと伸ばしていくことに全力を注いだ・・・もう何もおもしろくないことはない。あとはすべて良き後輩達に任そう。」

この先輩が書き残した手記に沿うよう我々はどれだけ教育に尽くしてきただろうか。この遺志をついで、もつともつと前進していかねばならない。

朱寿星びに瑞宝双光章

おめでと〜ございます



原田豊治郎 先生



堀内 衛 先生

— ちよつといひ話 —

伝記を読む時期

三 林 和 晃

現職の時、6年生の児童と個人面談の機会を持ちました。その際、全員に「伝記を10冊読み、そのうち最も印象に残った1冊の感想を書く」という課題を出しました。

これは、哲学者で教育学者の森信三先生の言葉を受けての取組でした。先生は、その著書『修身教授録』の中で伝記を読む時期は人生に三度あると書いています。「：人間は人生のうち、とくに伝記を読まねばならぬ時期があると思うのです。第一は、大体12、13歳から17、18歳前後にかけてであり、第二には34、35歳から40歳前後にかけてです。そのうち最初の方は立志の時期であり、また第二の時期は発願の時期と言つてよからうと思うのです。すなわち人間は12、13歳から17、18歳にかけては、まさに生涯の志を立てる時期です。すなわち一生の方向を定め、しかも、その方向に向かっていかに進むべきかという、腰の構えを決めべき時期です。しかもこの時期において、最も大きな力と光になるものは、言うまでもなく偉人の足跡を記した伝記であります。：」

こうして出した課題に対し、全員が感想を寄せてくれました。そのうちの一人の児童の文章の一部を紹介します。「ぼくが、ヘレンケラーを選んだ大きな理由は、『絶望の人生を転換させる力』そしてそこから学んだものを周りに伝え広める行動力』に心打たれたからです。：複数の障害を抱える運命になったことを恨むことなく、自分の個性として受け止め、世界に貢献したことがヘレンのすばらしさであり、ぼくがこの人物を選ぶ決め手となりました。世を去るまで貫いてきた生き方を考える、自分のように何不自由なく暮らしている者が、つまらない文句を言っていることに恥ずかしさを感じました。ぼくもヘレンケラーという偉大なる人物のように、不可能と思われる物事にもどんどんチャレンジできるようにになりたいです。」

こちらの意図をしつかりと感じ取ってくれたようです。

森先生は、また「第二の時期は60歳前後であつて、それは自分の一生のしめくりを如何にすべきかを学ぶために、われわれはもう一度先人の生き方について深く学ぶ必要があると思う。」と記しています。自分もまさにその時期を迎えた今、これからの人生をいかに生きるかを見定めるために、伝記を読み先人に学びたいと思います。

こうして出した課題に対し、全員が感想を寄せてくれました。そのうちの一人の児童の文章の一部を紹介します。「ぼくが、ヘレンケラーを選んだ大きな理由は、『絶望の人生を転換させる力』そしてそこから学んだものを周りに伝え広める行動力』に心打たれたからです。：複数の障害を抱える運命になったことを恨むことなく、自分の個性として受け止め、世界に貢献したことがヘレンのすばらしさであり、ぼくがこの人物を選ぶ決め手となりました。世を去るまで貫いてきた生き方を考える、自分のように何不自由なく暮らしている者が、つまらない文句を言っていることに恥ずかしさを感じました。ぼくもヘレンケラーという偉大なる人物のように、不可能と思われる物事にもどんどんチャレンジできるようにになりたいです。」

——日々雑感——

桜

高村 美恵

新型コロナ対策規制緩和の流れによつて、人々の心や生活にもやつと活気が戻ってきました。それは、人々だけでなく植物にも活気を取り戻させたようです。今年の桜前線の北上は例年に比べかなり早く、まるで春待つ人々の思いが通じたかのようです。にぎやかな春の訪れに心躍りました。

桜という春を彩る代表的な花として古くから日本人の心を魅了してきましたが、その桜を愛でる文化としてお花見があります。桜の花見は平安時代から始まったようで、平安人の桜愛を今に伝える和歌も数多く残っています。平安時代を代表する「源氏物語」では、桜は「紫の上」を象徴する花として描かれています。光源氏が北山で初めて目にした幼少の若紫を満開の山桜によそえており、その後、成長した紫の上の美しさは咲き乱れる桜のようであると表現されています。そして、彼女の過酷な運命は、やがて散りゆく桜に重ね合わせて描かれていきます。私にとつて紫の上は、源氏物語に登場する女性の中で一番心惹かれる女性です。いち早い桜の開花は、学生時代に学

んだ源氏物語を久しぶりに思い出させてくれました。

もう一つ、今年の桜は懐かしい思い出を運んでくれました。

中学校のグループラインに一枚の写真が送られてきました。同級生たちのお花見の写真です。

私の故郷は、四国八十八カ所の二十番札所がある徳島の田舎町です。山々に囲まれた自然豊かな場所です。春には山桜が咲き乱れ山の所々に霞がかかったようなまるで絵画のように美しい景色が広がります。

この町に残っている同級生はわずかですが、多くの友人が近くの町に住んでいます。今年は何年かぶりにお花見をしたとのことでした。写真を拡大し懐かしい友の顔をたどりながら毎日登下校を共にしたMちゃんに、小学校の頃の面影が残っていることに少し嬉しくなったり部活で一緒に汗を流したYちゃんの笑顔を見て思わず自分も笑顔になったり。桜の下には子供の頃と変わらない笑顔が溢れていました。今年と同窓会が開かれるようなので、今から帰郷を楽しみにしています。この先、コロナ感染の心配と隣り合わせの日々がまだまだ続くかと思いますが、毎年桜の開花と共にたくさんの人の笑顔が咲き誇ることを願ってやみません。

初任者の気分で

坂井 知子

退職して3年。市内の高校で書道科の教員として勤務するようになって1年が過ぎたところです。初めて高校の教壇に立ち、初めて書道を教え、初任者のような、不安と驚きと好奇心が入り混じった新鮮な日々を過ごしています。

退職したら好きな書道をやりたい。そんな思いはあったものの、もともと計画性とか強い意志とか、そういうものはありません。書道科の先生に師事することができ、(日本語指導に携わりながら)とにかく毎日練習をするという日々を送っている中で、「書道科の教員がいなくて……」というお話を聞いた、という経緯です。思い切ってお受けしたものの、やはり「初めて」は大変で、あたふたしたり、じたばたしたり、諦めて腹を括ったり。でも、そんな中で、少しずつ「面白い」と思えることが増え、意外と充実した日々を過ごしています。

高校生との付き合いも面白いです。大人のようなしつかりとした対応ができ、パワーがあつて明るく盛り上がることもでき、子供のように無邪気な面

を見せたかと思うと、心の奥深いところで自分の悩みと向き合つて考え続ける様子が垣間見えたり、鋭い目で大人を観察していたり……一緒にいるとドキドキしてわくわくしてきます。

そんな生徒たちと、日々の授業を創り、沖縄修学旅行や黒姫へのスキー教室にも行き、放課後は10数年ぶりに部活動にも取り組んでいます。さらに、大学入試に向けた進路指導など、初めて経験する仕事や、その中の生徒の様子に、今さらながら「なるほど」と感心しています。

以前『下山の思想』という本の中で、「登山しているときには全く気付かなかった風景が見えてくる」という言葉に出会ったことがあります。今の私もそういう感じです。今、見えている景色に、この機会をいただいた意味を見つけないながら、あと少しの間、おそらくこれが本当に最後になるだろう教員生活を楽しんでみたいと思います。『下山の思想』の中では、「実りある下山の時代を終えてこそ、新しい登山のチャレンジがある。」と続きます。

書道も、師事している先生に呆れられないように、そしてできれば10数年後くらいには一人前になれるように、退職されてなお頑張つていらつしやる多くの先輩方をお手本にして、私も頑張つていきたいと思えます。

教育情報

「よさを認め合い、

夢中になって取り組む授業の創造」

「学びに向かう力を育み、

体力・学力の向上を図る

体育授業の実践」

川口市立飯仲小学校

校長 林 奈緒美

(現川口市立戸塚小学校)

1 はじめに

本校はJR川口駅近くに位置する町中の学校で、中学受験をする児童が多い。児童は、人目を気にし、一生懸命取り組むことに抵抗を示す傾向にある。失敗を恐れずに挑戦し、前向きに活動を楽しむことへの意欲の乏しさが、体力と共に課題となっていた。そこで、体育科を軸として、全校で、児童の学びへの「夢中」を生み出す授業づくりに取り組んだ。

2 研究主題

「よさを認め合い、夢中になって取り組む授業の創造」

仲間との豊かな「関わり合い」が、児童のよさや伸びを引き出し、学びに向かう意欲と夢中を生むものと考えた。「関わり合い」を通し児童が生き生きと学習に臨むこと、その結果が児

童の運動の伸びや体力、さらには学力にも繋がることを目指した。

3 研究の実践

(1) 研究三部会の取り組み

① 「授業研究部」

1時間の授業展開や学習カードの作成、研究の手立てについて提案し、授業改善を図った。運動時間30分以上の確保と肯定的言葉がけ百回以上を意識した授業実践を進めた。

② 「調査研究部」

児童の実態把握と分析、及び、「授業期間記録」、「形成的授業評価」、「言葉がけ分析と児童の反応分析」の記録と考察を行い、1時間や単元全体の授業を可視化して授業改善へつなげた。

③ 「掲示環境部」

日々の授業において視覚的に学ぶ活用できる教材資料や体力テストの結果、授業記録の掲示物を作成・掲示し、児童の関心を高めた。

(2) 授業実践

単元のゴール

イメージを明確にし、系統性と「知る」「高める」「楽しむ」過程をふまえ、目標と学びの道筋を組み



入れた単元計画を作成すること

を重視した。音楽

を取り入れたマ

ネジメントの工

夫により、運動時

間を確保し、肯定

的な言葉がけを

意識すると共に、

児童が思考し、児

童同士の相互作

用を生む場を設

定した。調査研究

部による記録分

析・評価から、単

元における児童

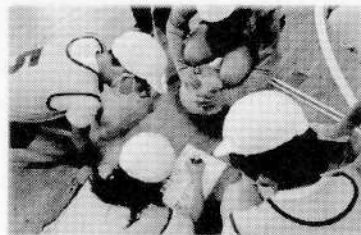
の意識変化を見

とり、授業計画の

改善を行った。

4 研究の成果と課題

児童アンケートでは、授業を楽しみ、前向きに取り組む児童が増えた結果を全学年で得ることができた。新体力テストA+B+Cの割合もアップした。教師の肯定的な声かけや、児童主体の活動時間を意識し友達同士の励まし合いを生んだことが、「楽しい」「できるようになった」感へ、そして体力の向上へ繋がったと考える。



しかしながら、児童の前向き姿勢や挑戦意欲、体力や運動技能については、より伸ばしていく必要がある。体力や学力の向上には、児童の「学びに向かう力」を引き出し高めていくことが不可欠である。「できた!」「楽しい」を児童に体感させ、夢中を生む授業づくりへの挑戦は続く。

編集後記

会報「柏樹」第27号をお届けいたしますと共に玉稿を賜りました皆様により感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染症5類移行に伴ってコロナ前の生活に戻りつつありますが、手放しに以前の日常という状況にはならない日々です。適切に感染対策を行いながら人と人との関わり合いを大切にしたいものです。

各学校ではマスクが外され、会話を楽しむ給食が戻るなど、活気ある学校生活の様子を耳にするようになりました。元気な子どもたちの声が学校に地域に響き合うことを願います。

(林 俊幸)

来年度より、段階的定年延長に伴い新会員数の減少が見込まれます。魅力ある退職校長会に向けて、会員の皆様への建設的なご意見を幹事までお寄せください。